

飯塚市地域福祉に関するアンケート調査 調査結果概要

平成 24 年 9 月

飯 塚 市

I. 調査の目的

本調査は平成 24 年度中に行う「第 2 期飯塚市地域福祉計画」策定の基礎資料として、地域福祉に関する市民の意識や地域での支えあいの状況、日常生活での課題や問題点を把握することを目的として実施した。

II. 調査設計

- 調査数 市内在住の 3,000 人
- 抽出方法 住民基本台帳より無作為抽出
- 調査方法 郵送配布一郵送回収 ※礼状兼協力依頼ハガキ（1 回）送付
- 調査時期 平成 24 年 7 月 20 日～平成 24 年 8 月 8 日

III. 回収結果

- 有効回収数 1,542 件
- 有効回収率 51.4%

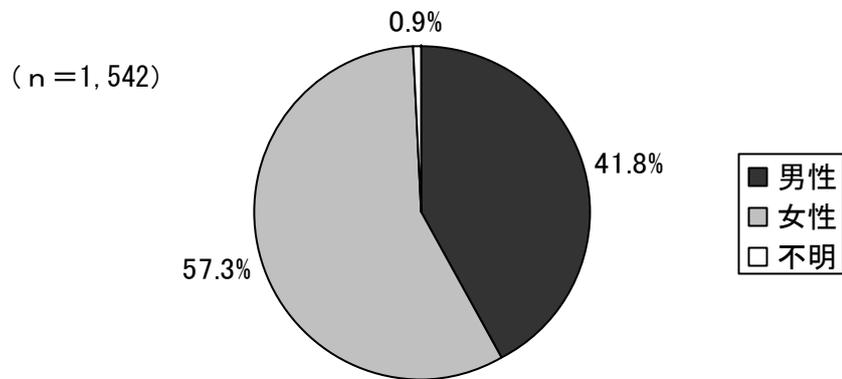
IV. 調査結果の見方

- (1) 回答は、原則として各質問の調査数を基数とした百分率（%）で表し、小数第 2 位を四捨五入している。このため、百分率の合計が 100%にならない場合がある。また、2 つ以上の回答ができる複数回答の質問では、回答比率の合計が 100%を超える場合がある。
- (2) 図表中の選択肢表現は、コンピュータ入力の都合上、調査票の回答選択肢を短縮して表記している場合がある。
- (3) 図表中には、回答者数が非常に少ない場合がある。このような場合には、回答比率の数字が動きやすく、厳密な比較をすることが難しいので、回答の傾向をみる程度になる。

V. 調査結果の概要

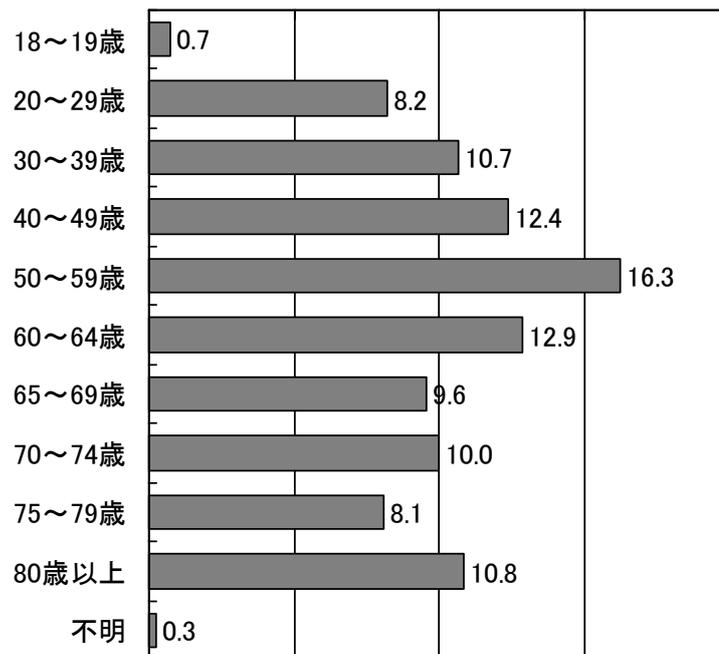
1. 回答者の基本属性

(問1) 性別



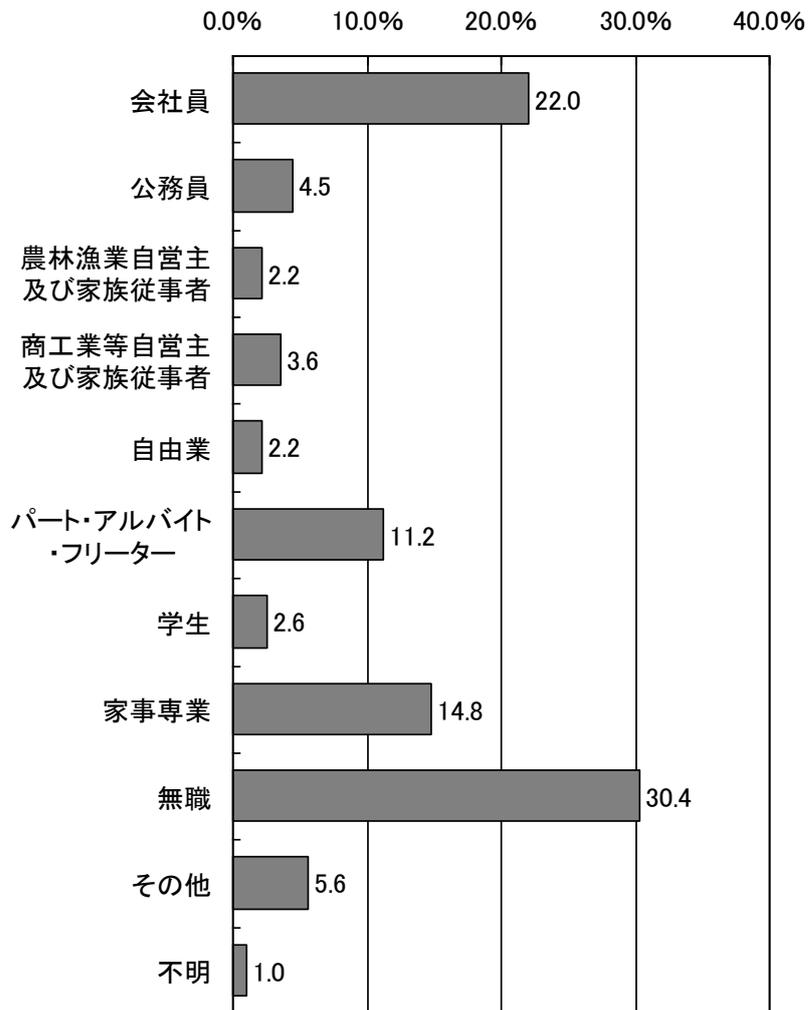
(問2) 年齢

(n=1,542) 0.0% 5.0% 10.0% 15.0% 20.0%



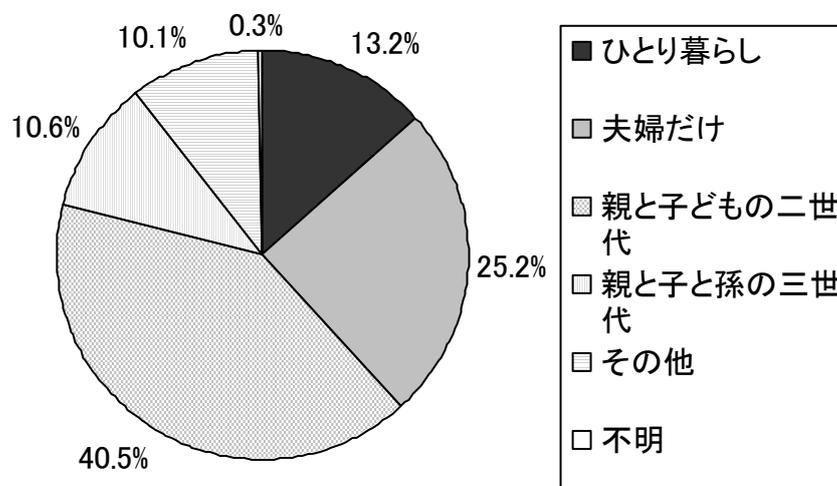
(問3) 職業

(n=1,542)

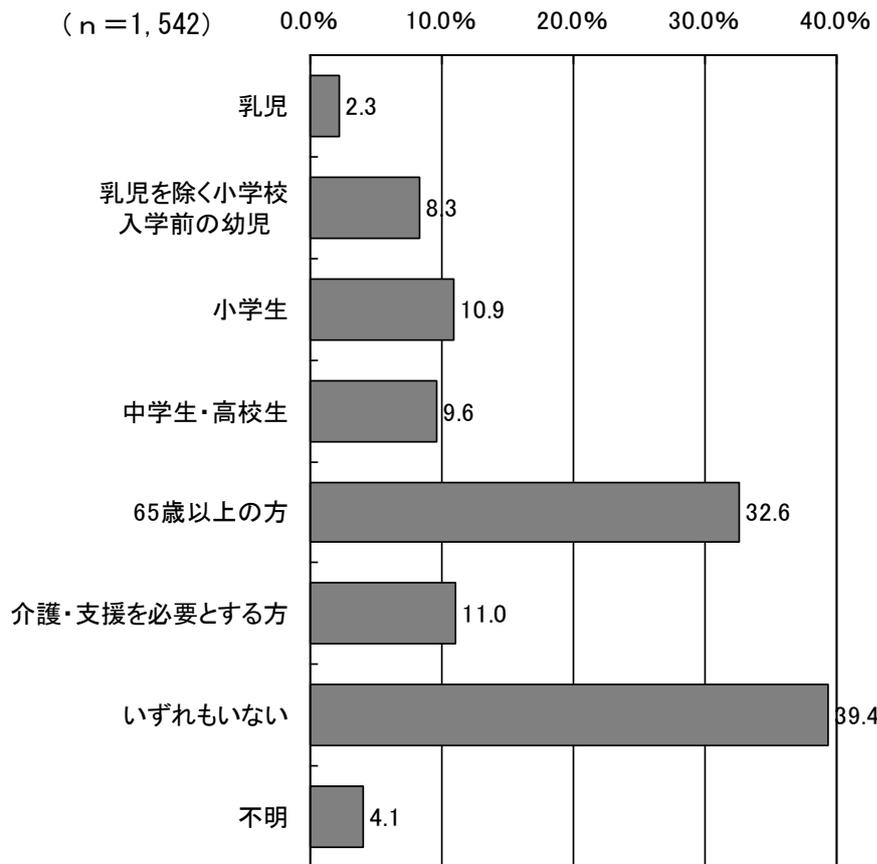


(問4) 家族構成

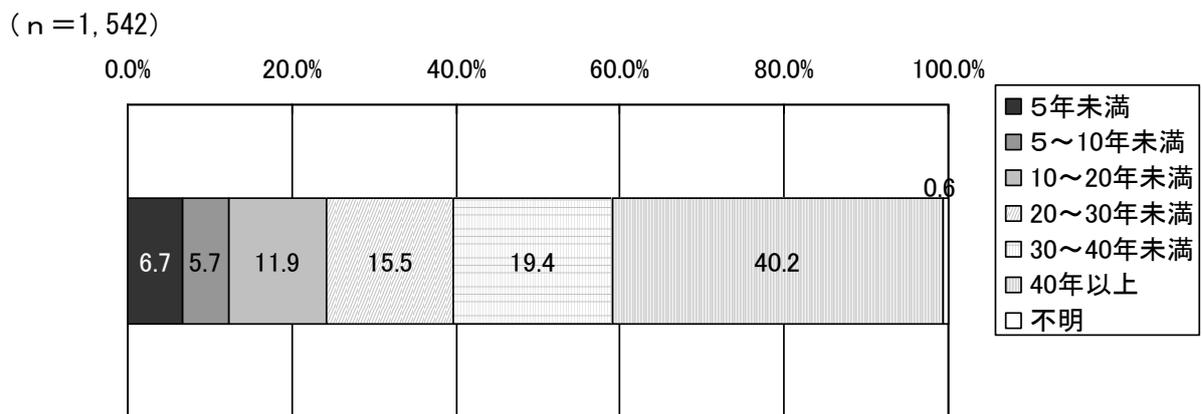
(n=1,542)



(問5) 同居者

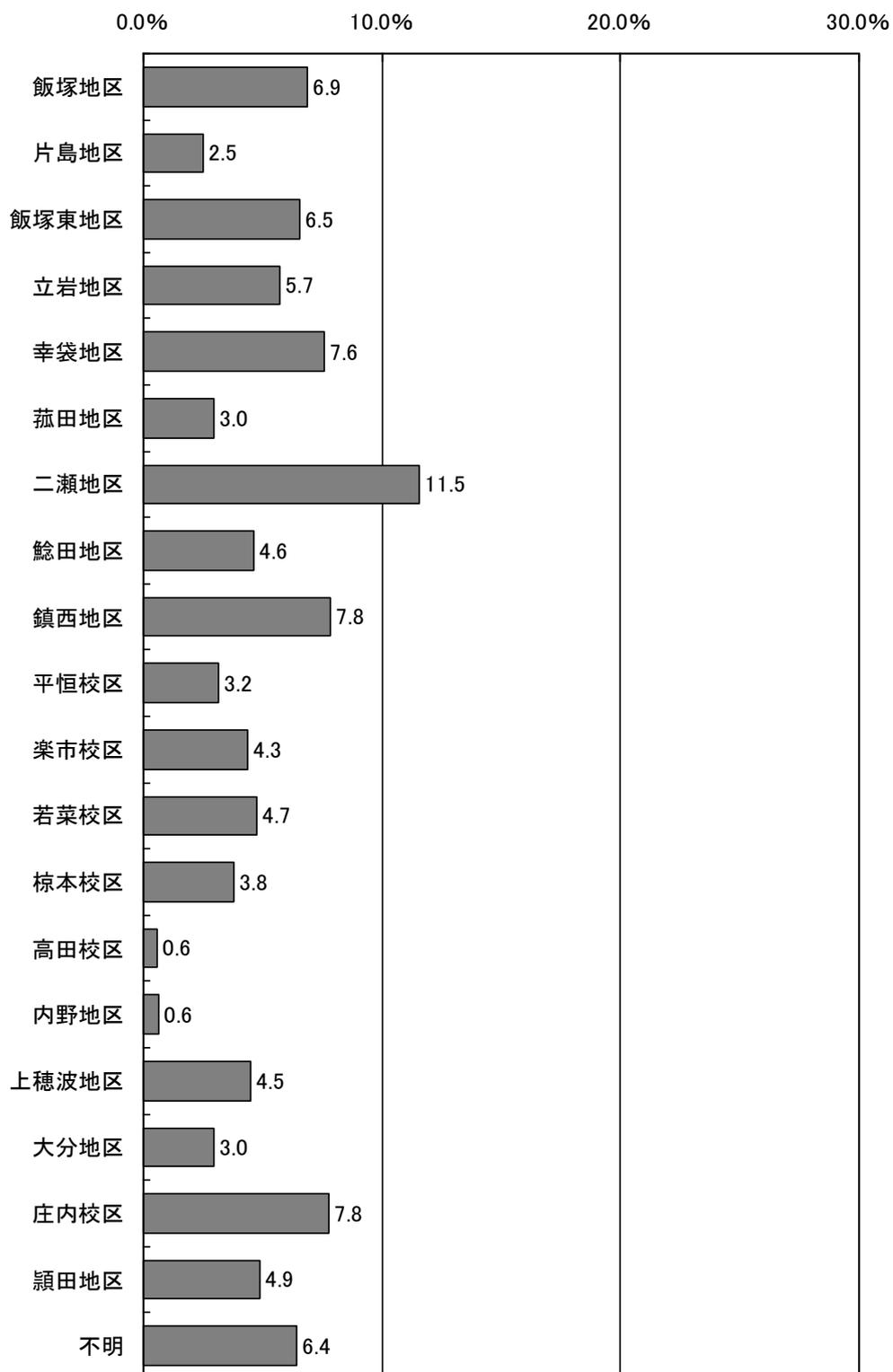


(問7) 居住年数



(問6) 居住地区

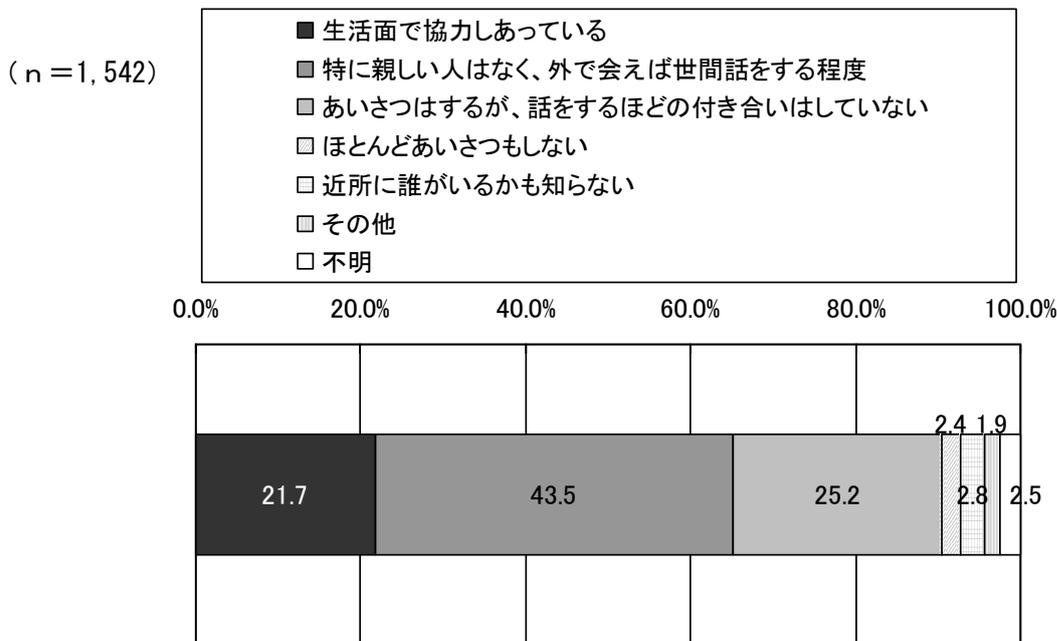
(n = 1,542)



2. 地域生活について

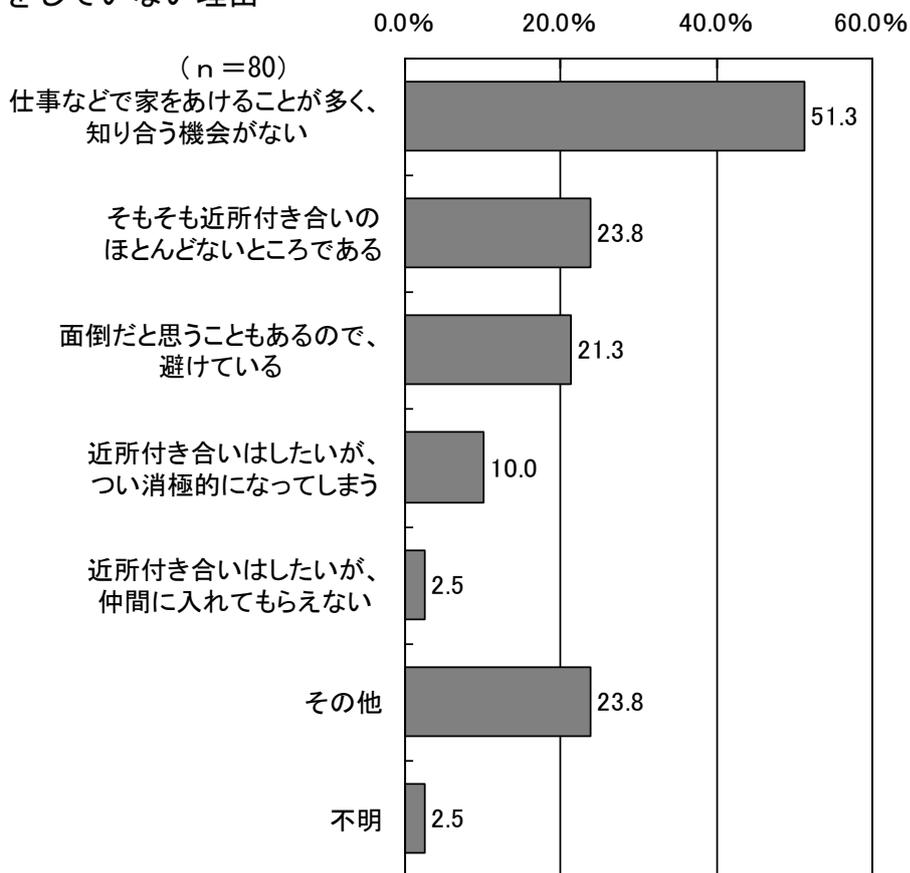
(問8) 近所付き合い

現在の近所付き合いの状況をみると、「特に親しい人はなく、外で会えば世間話をする程度」(43.5%)との回答が最も多く、次いで「あいさつはするが、話をするほどのつきあいはしていない」が25.2%、「互いに相談したり日用品の貸し借りをするなど、生活面で協力しあっている」が21.7%で続いている。



(問8-1) ほとんど付き合いをしていない理由

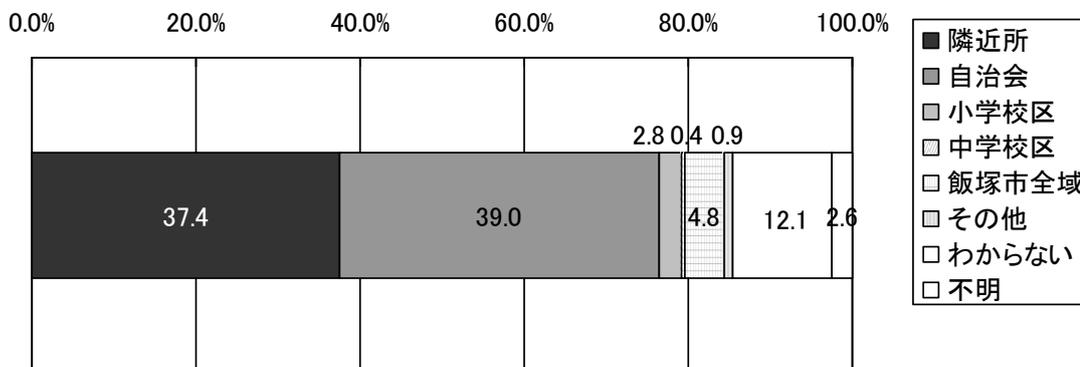
現在、ほとんど近所付き合いをしていない人にその理由を質問した結果、「仕事などで家をあけることが多く、知り合う機会がない」(51.3%)との回答が過半数を占め、このほか「そもそも近所づきあいのほとんど無いところである」(23.8%)、「近所づきあいは面倒だと思うこともあるので、避けている」(21.3%)の割合が高くなっている。



(問9) 「地域」の範囲

住民が一体感を持って互いに助け合うことのできる「地域」の範囲では、「自治会(町内会・区など)」が最も多く39.0%を占め、これに「隣近所」(37.4%)が続いている。

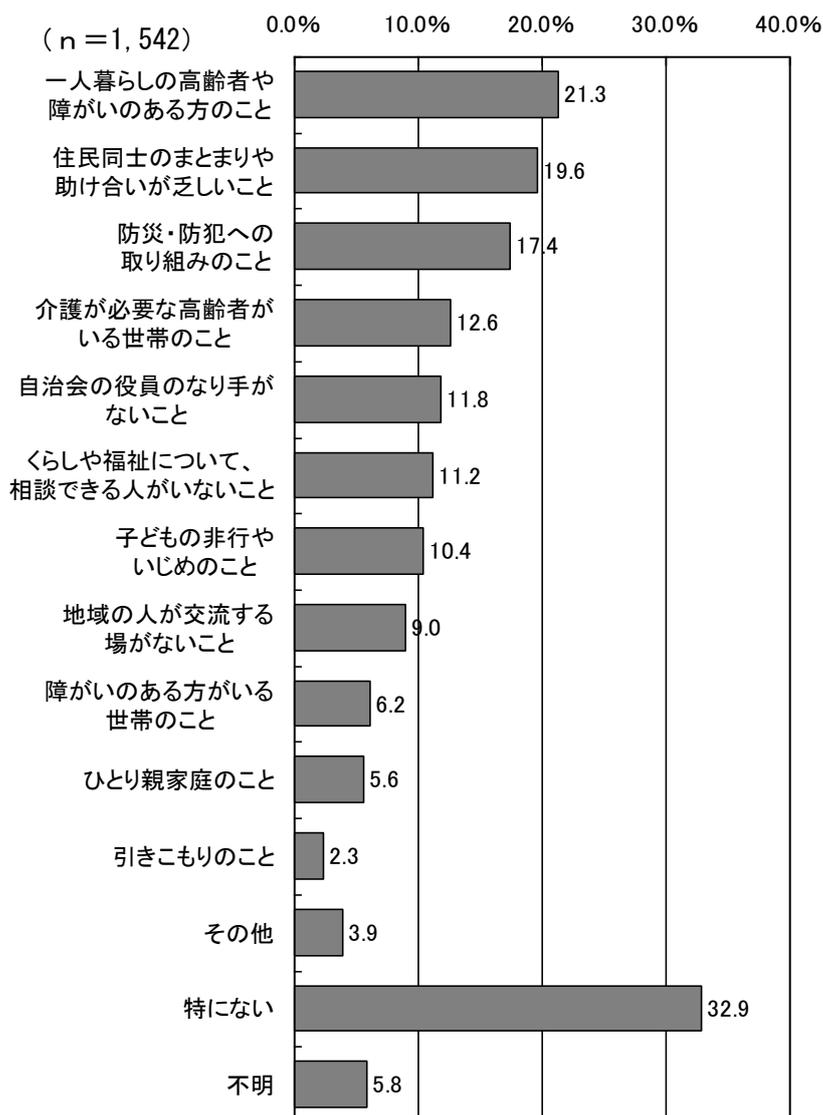
(n=1,542)



(問10) 地域の問題

地域の問題として考えられているものでは、「ひとり暮らしの高齢者や障がいのある方のこと」(21.3%)が最も多く、これに「住民同士のまとまりや助け合いが乏しいこと」(19.6%)、「防災・防災への取り組みのこと」(17.4%)がこれに続いている。

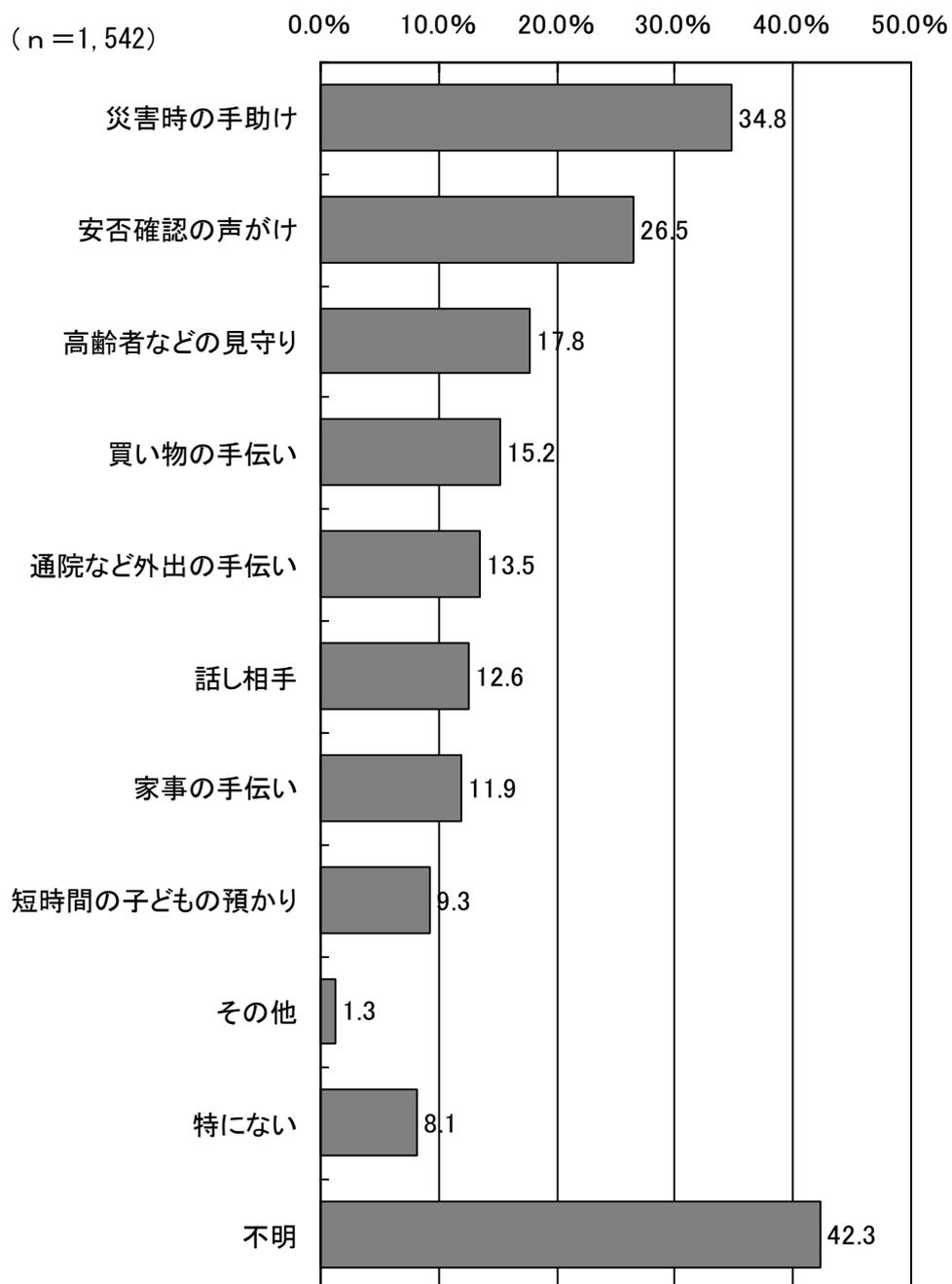
(n=1,542)



(問 11) 地域で手助けしてほしいと思うこと・手助けできると思うこと

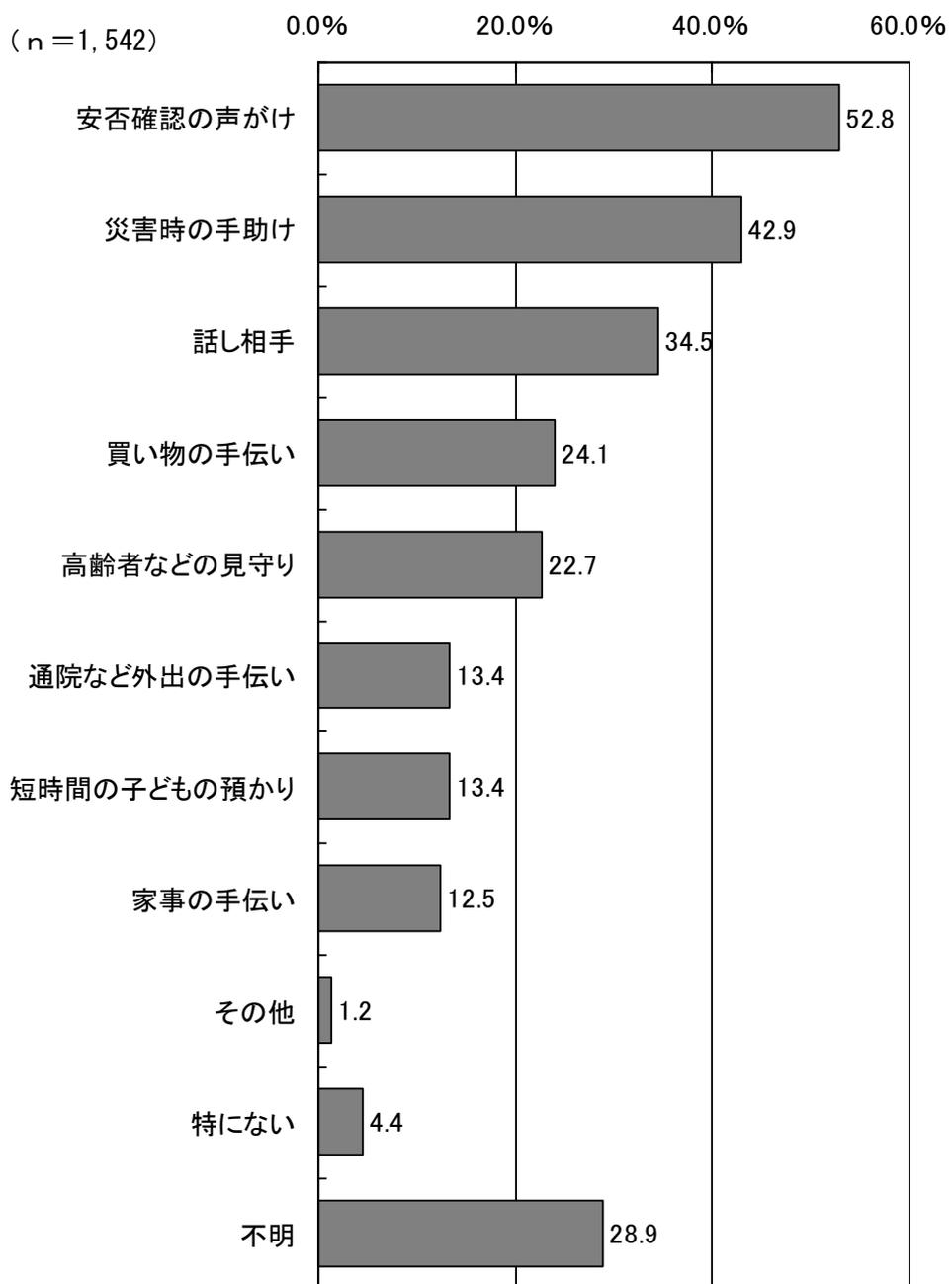
①手助けしてほしいと思うこと

自分自身や家族が、日常生活が不自由になった場合、地域で手助けしてほしいと思うことでは、「災害時の手助け」(34.8%)が最も多く、これに「安否確認の声かけ」(26.5%)が続いている。



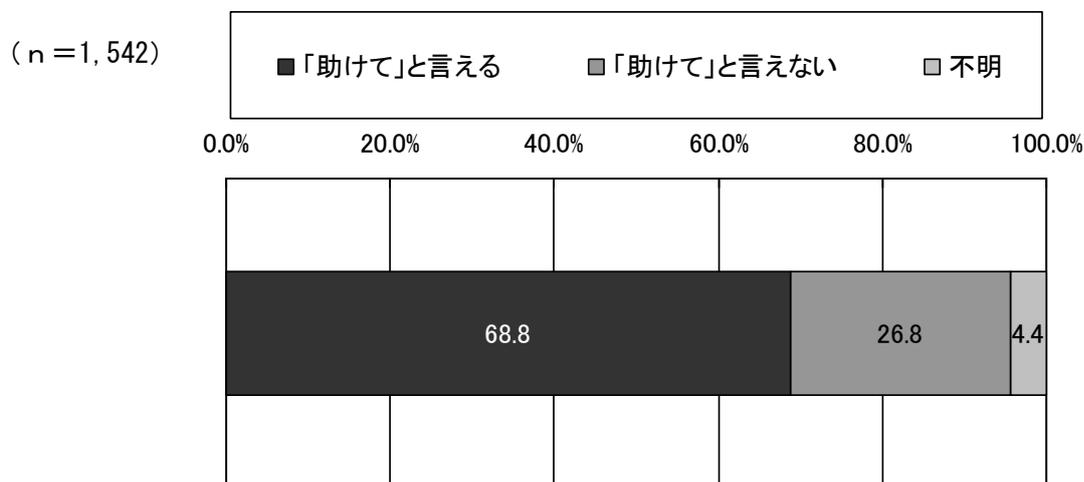
②手助けできると思うこと

今後、近所との付き合いの中で、手助けできると思うことでは、「安否確認の声かけ」(52.8%)が最も多く、これに「災害時の手助け」(42.9%)が続いている。



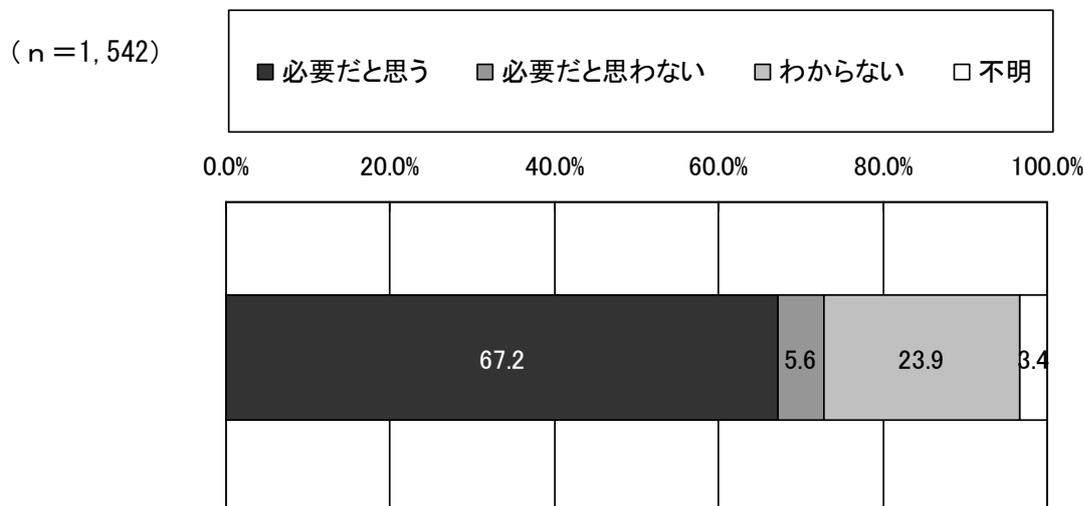
(問 12) 助けを求めることができるか

困った時に誰かまわりの人に助けを求めることができるかについては、「助けて」と言えるが68.8%を占め、「助けて」と言えないは26.8%を占めている。



(問 13) 住民相互の協力関係の必要性

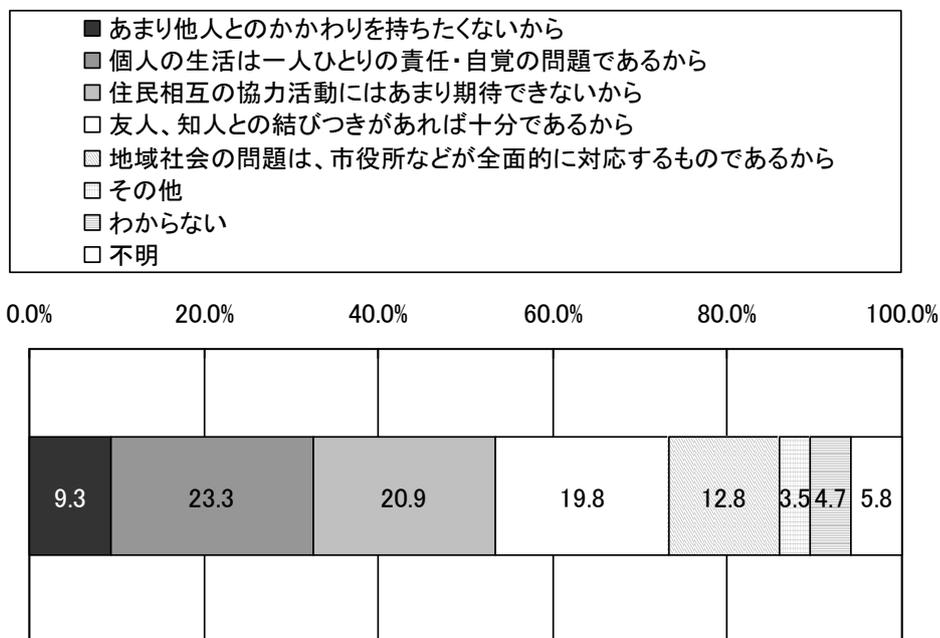
地域の福祉課題に対して、住民相互の自主的な協力関係が必要と思うかについては、「必要だと思う」が67.2%を占め、「必要だと思わない」は5.6%であった。



(問 13-1) 協力関係が必要だと思わない理由

地域の福祉課題に対して、住民相互の協力関係が必要だと思わない人にその理由を質問した結果、「個人の生活は一人ひとりの責任・自覚の問題であるから」(23.3%)との回答が最も多く、次いで「住民相互の協力活動にはあまり期待できないから」(20.9%)、「友人、知人との結びつきがあれば十分であるから」(19.8%)がこれに続いている。

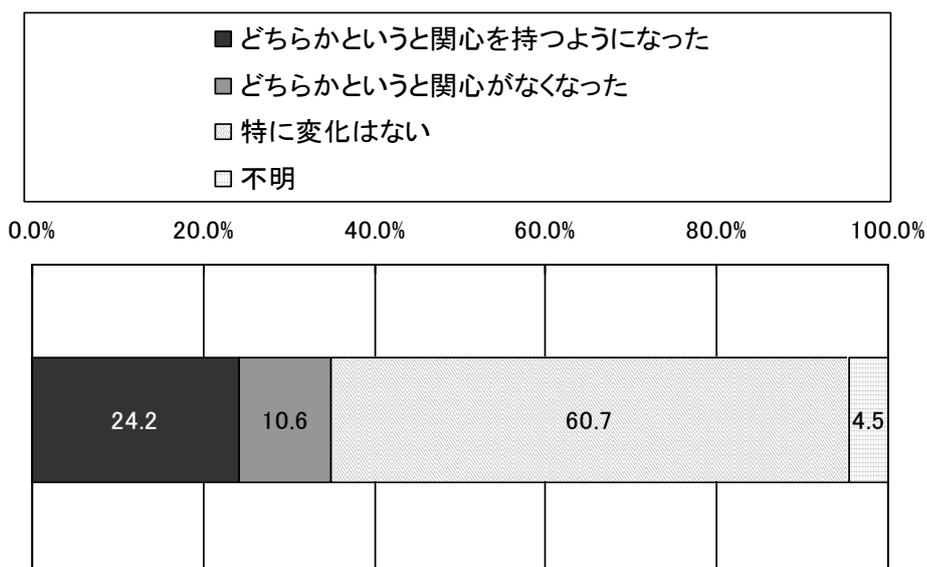
(n=86)



(問 14) 地域の行事や福祉活動についての関心の変化

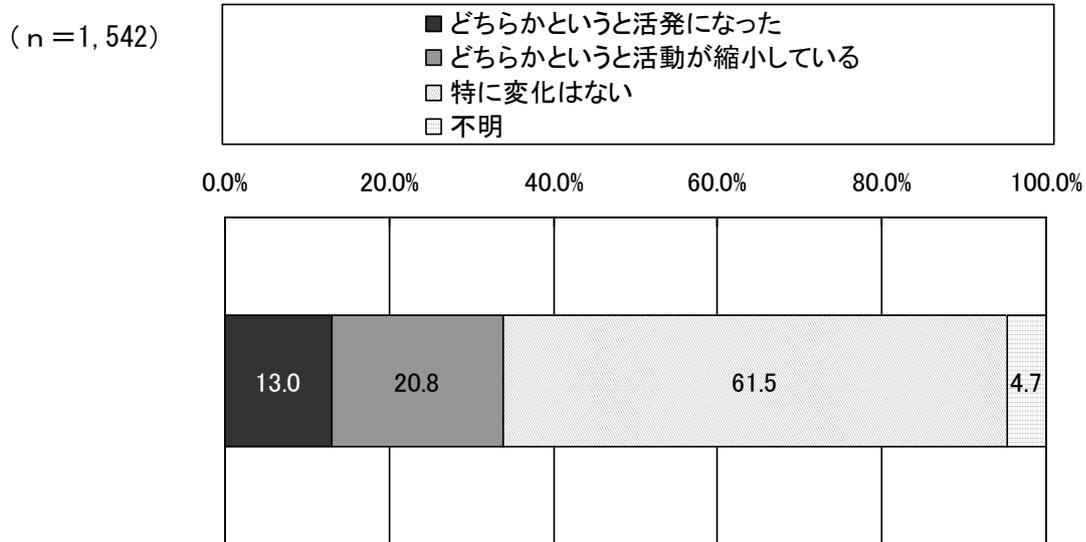
ここ5年程度の、自身の地域の行事や福祉活動についての関心の変化では、「特に変化はない」(60.7%)が6割を超えている。

(n=1,542)



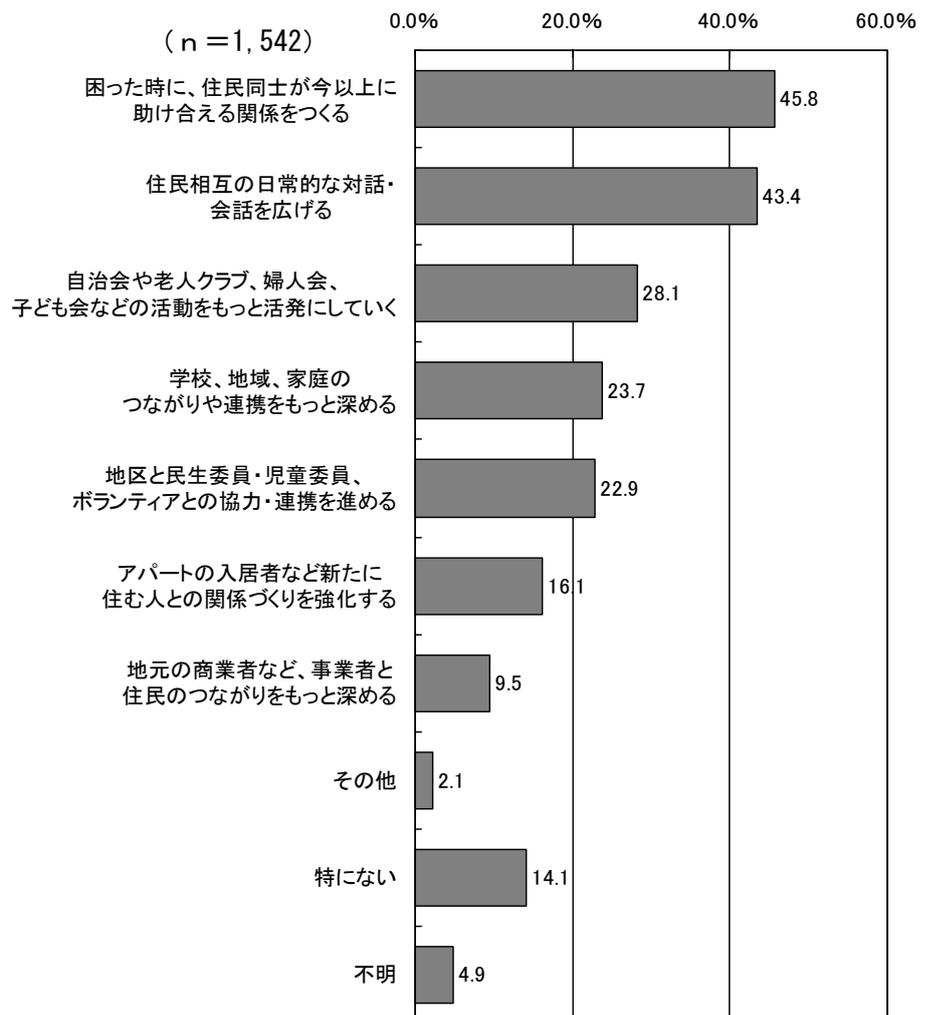
(問 15) 地域の行事や福祉活動の変化

ここ5年程度の、地域の行事や福祉活動の変化では、「特に変化はない」(61.5%)が6割を超えている。



(問 16) 地域の活動を活発にするために大切なこと

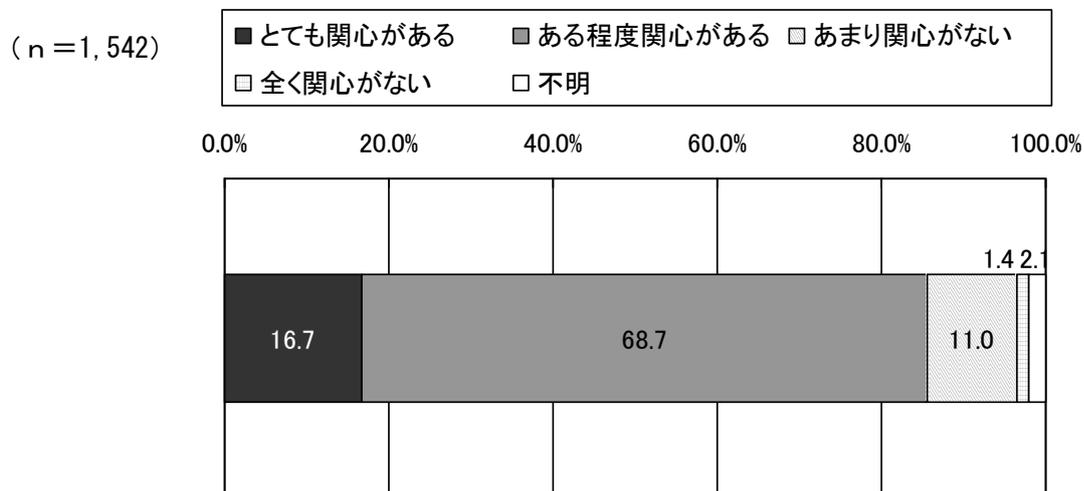
地域の活動を活発にするために大切なことでは、「困った時に、住民同士が今以上に助け合える関係をつくる」(45.8%)との回答が最も多く、次いで「住民相互の日常的な対話・会話を広げる」(43.4%)がこれに続いている。



3. 福祉に対する意識や活動について

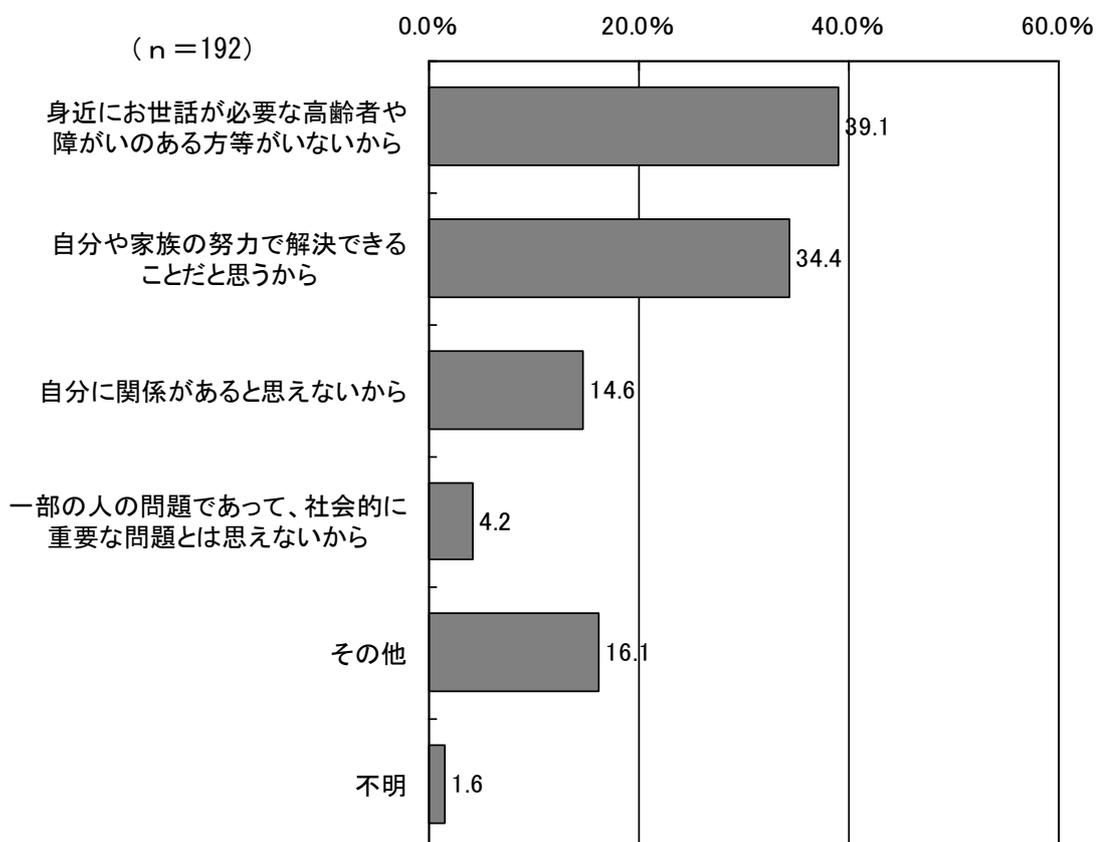
(問 17) 「福祉」への関心

「福祉」への関心については、「ある程度関心がある」が 68.7%を占め、『関心がある』（「とても関心がある」+「ある程度関心がある」）の割合は 85.4%を占めている。



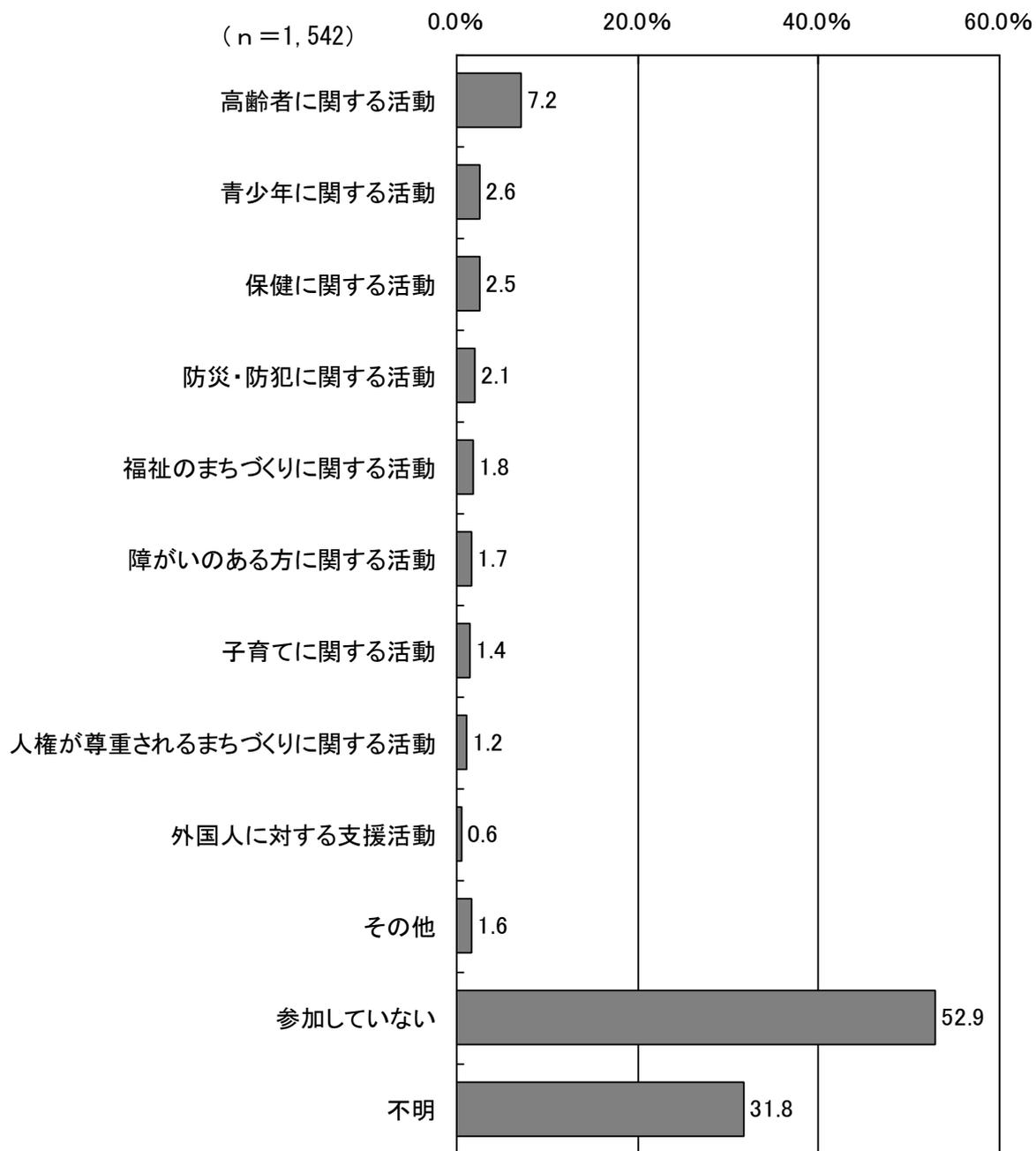
(問 17-1) 「福祉」に関心がない理由

「福祉」に関心がない理由では、「身近にお世話が必要な高齢者や障がいのある方等がないから」(39.1%)との回答が最も多く、次いで「自分や家族の努力で解決できることだと思うから」(34.4%)が続いている。



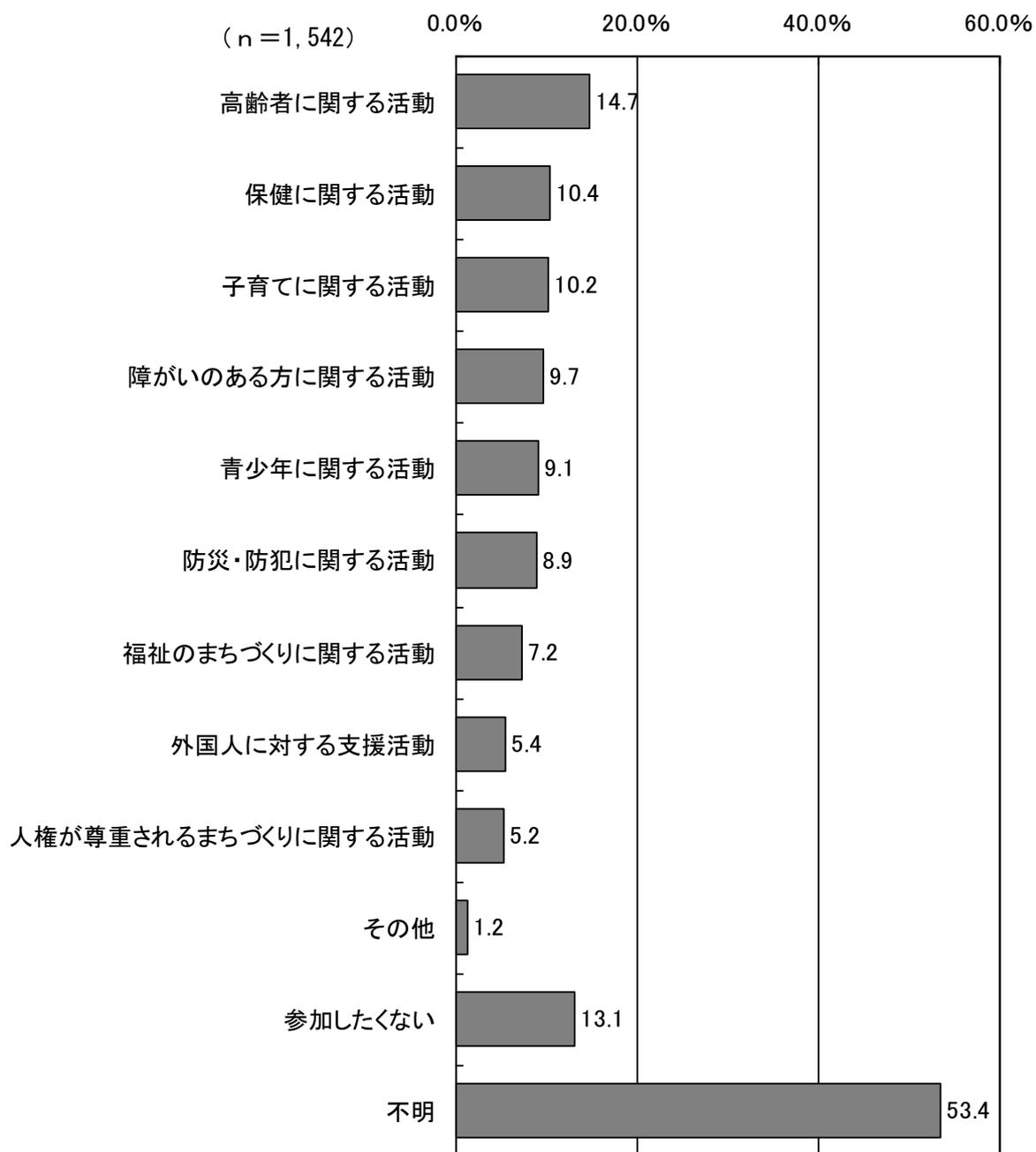
(問 18) 現在参加している地域活動

現在参加している、福祉に関連するボランティア、NPO、地域活動については、「参加していない」が 52.9%と過半数を占めており、参加している活動では「高齢者に関する活動」(7.2%) が最も多くなっている。



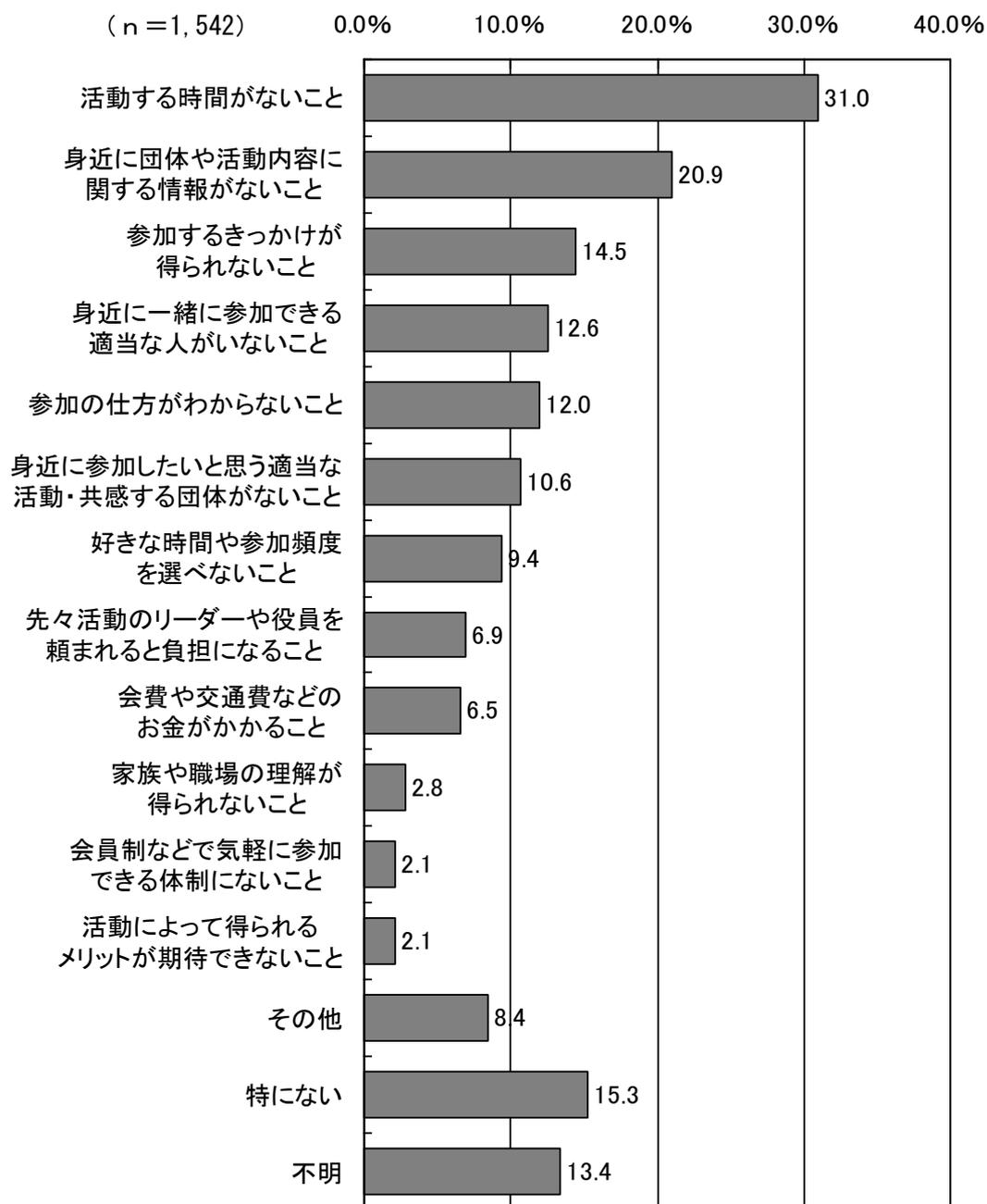
(問 18) 今後参加したい地域活動

今後参加したい、福祉に関連するボランティア、NPO、地域活動については、「高齢者に関する活動」(14.7%)が最も多く、次いで「保健に関する活動」(10.4%)、「子育てに関する活動」(10.2%)が続いている。



(問 19) 地域活動への参加で苦勞すること、参加できない要因

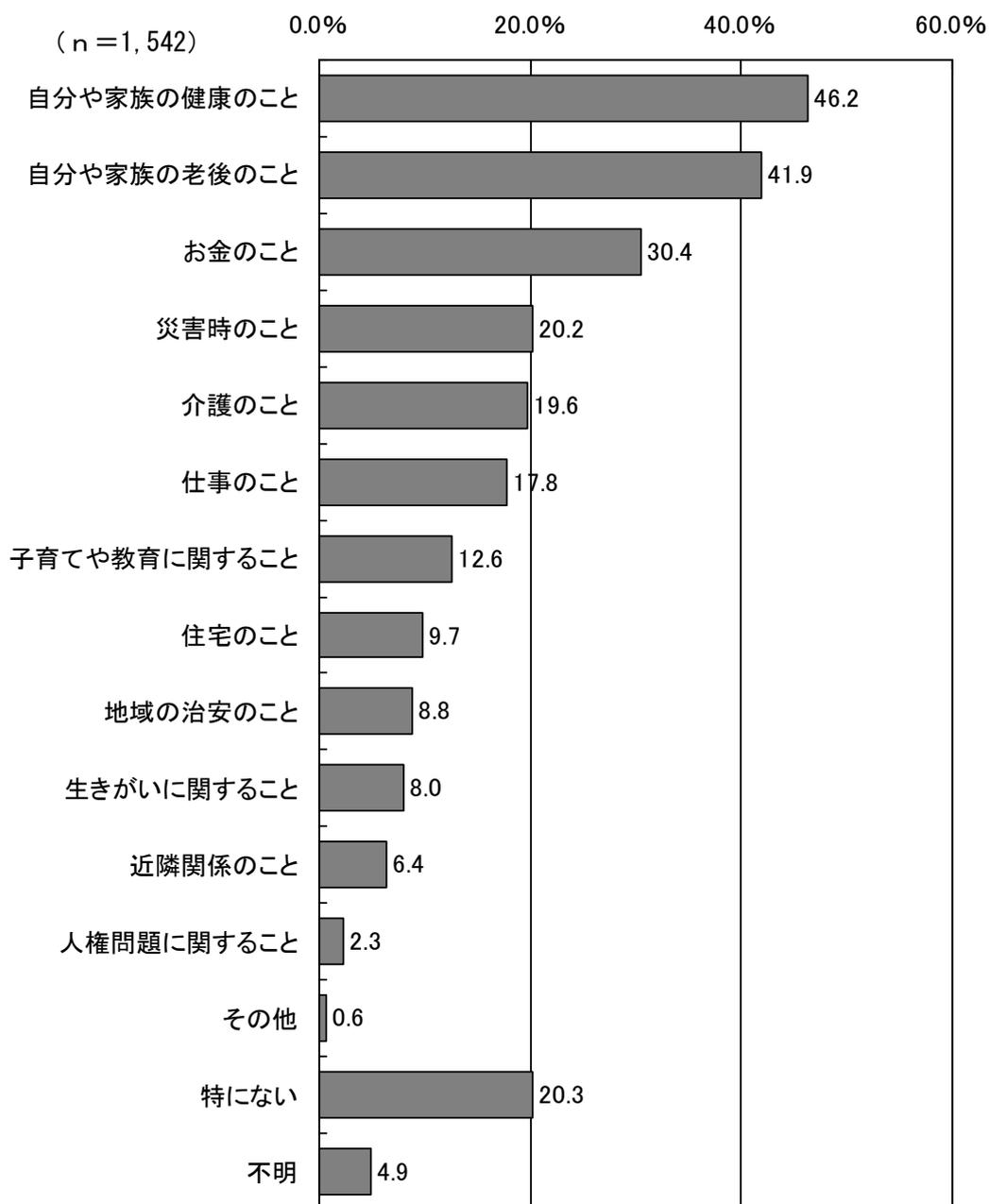
地域活動への参加で苦勞すること、または参加できない要因となっていることを質問した結果、「活動する時間がないこと」が 31.0%で最も多く、次いで「身近に団体や活動内容に関する情報がないこと」(20.9%)が続いている。



4. 福祉サービスについて

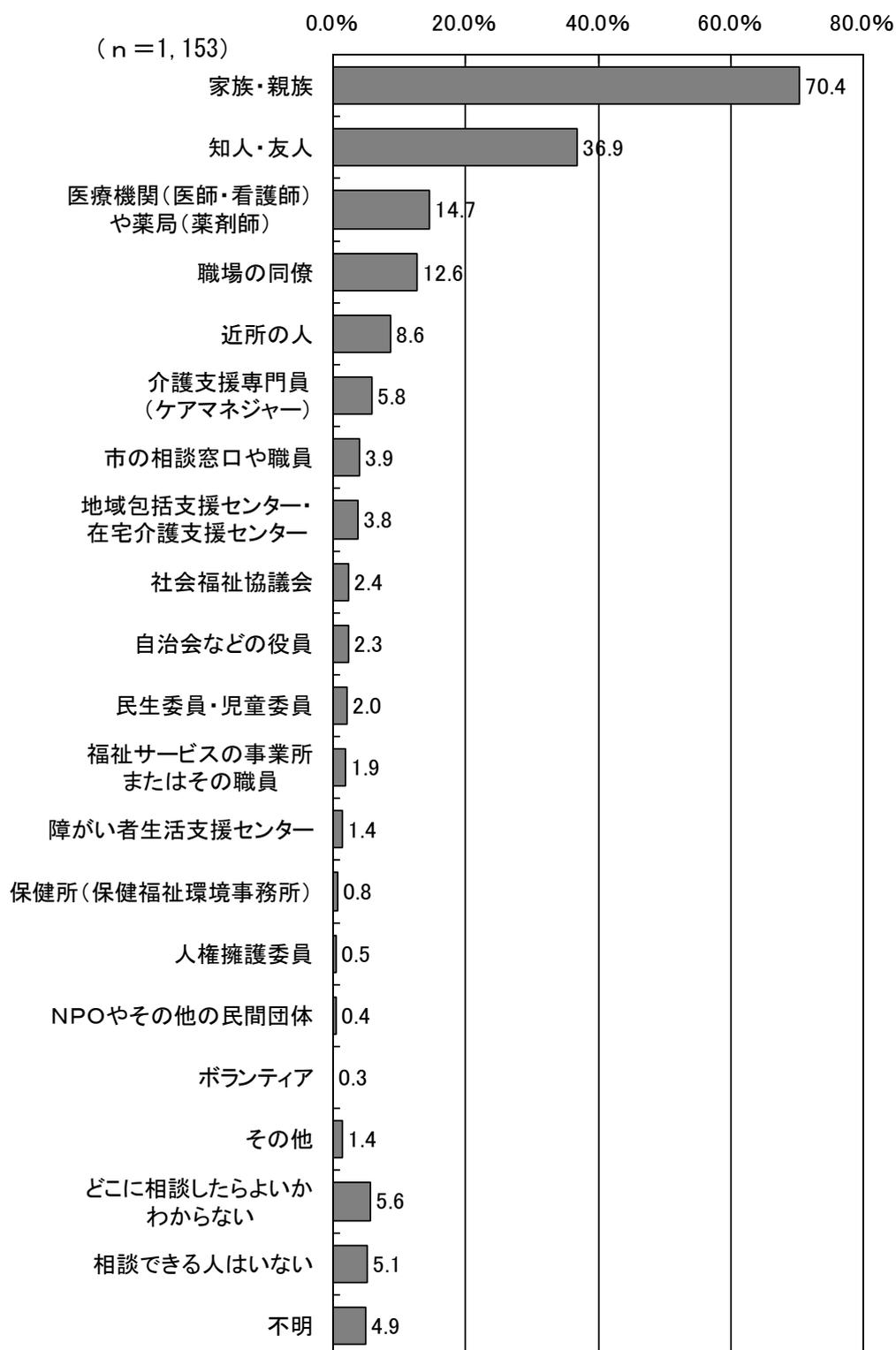
(問 20) 日常生活での悩みや不安

現在、日常生活において感じている悩みや不安については、「自分や家族の健康のこと」(46.2%)との回答が最も多く、次いで「自分や家族の老後のこと」(41.9%)、「お金のこと」(30.4%)が続いている。



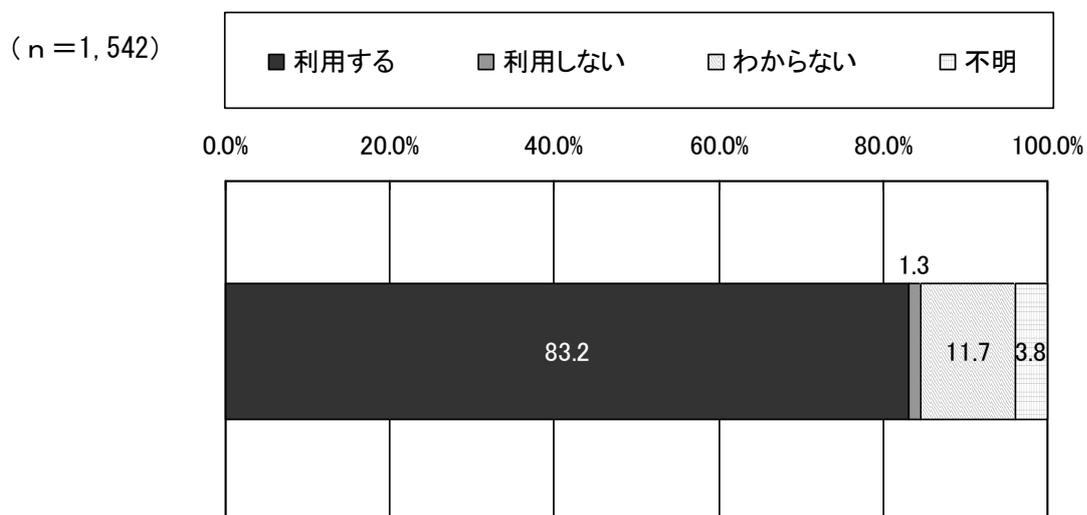
(問 20-1) 悩みや不安の相談先

悩みや不安についての相談先は、「家族・親族」(70.4%)が7割を占め、これに「友人・知人」(36.9%)が続いており、身近な人での割合が高くなっている。



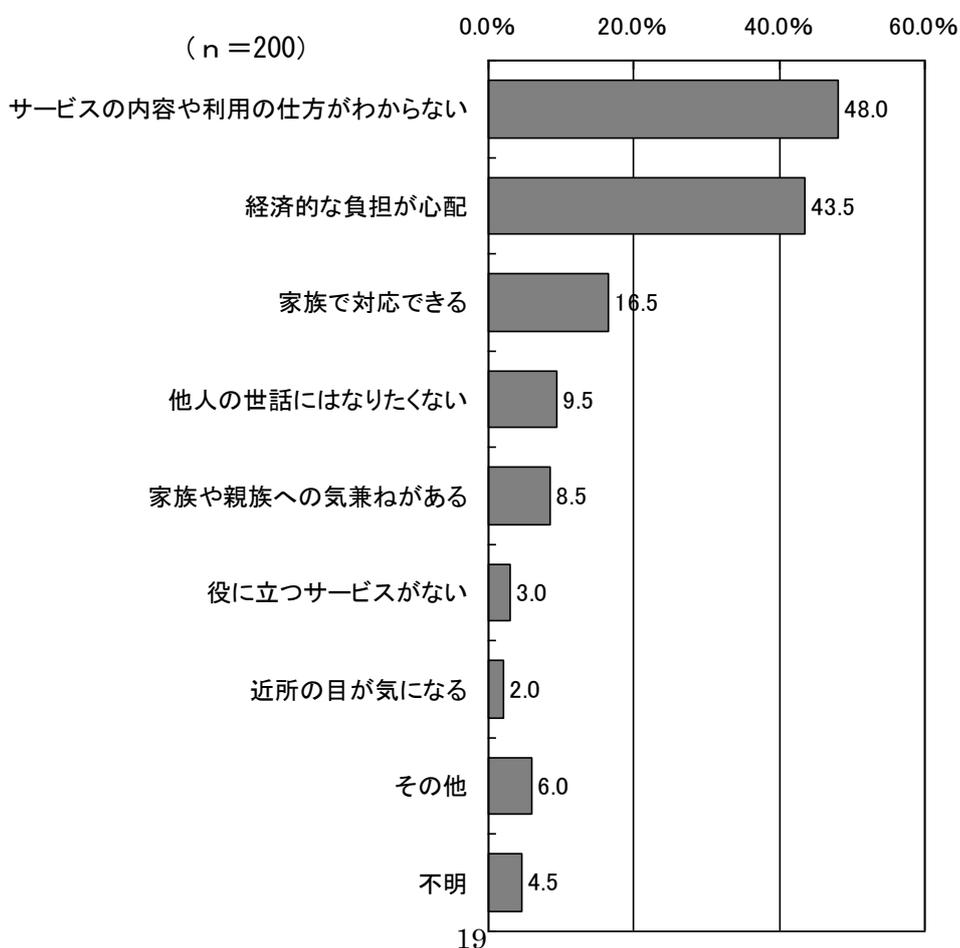
(問 21) 福祉サービスの利用意向

自分自身や家族が必要になった場合の福祉サービスの利用意向については、「利用する」が83.2%を占め、「利用しない」が1.3%、「わからない」が11.7%となっている。



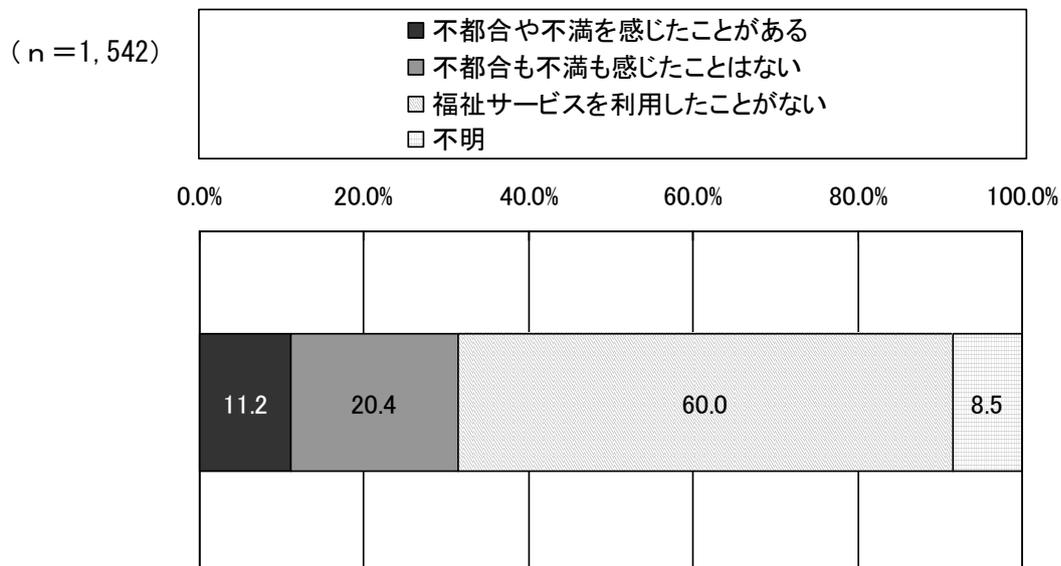
(問 21-1) 利用しない理由

福祉サービスを「利用しない」「わからない」と回答した人について、その理由を質問した結果、「サービスの内容や利用の仕方がわからない」(48.0%)との回答が最も多く、次いで「経済的な負担が心配」(43.5%)が続いている。



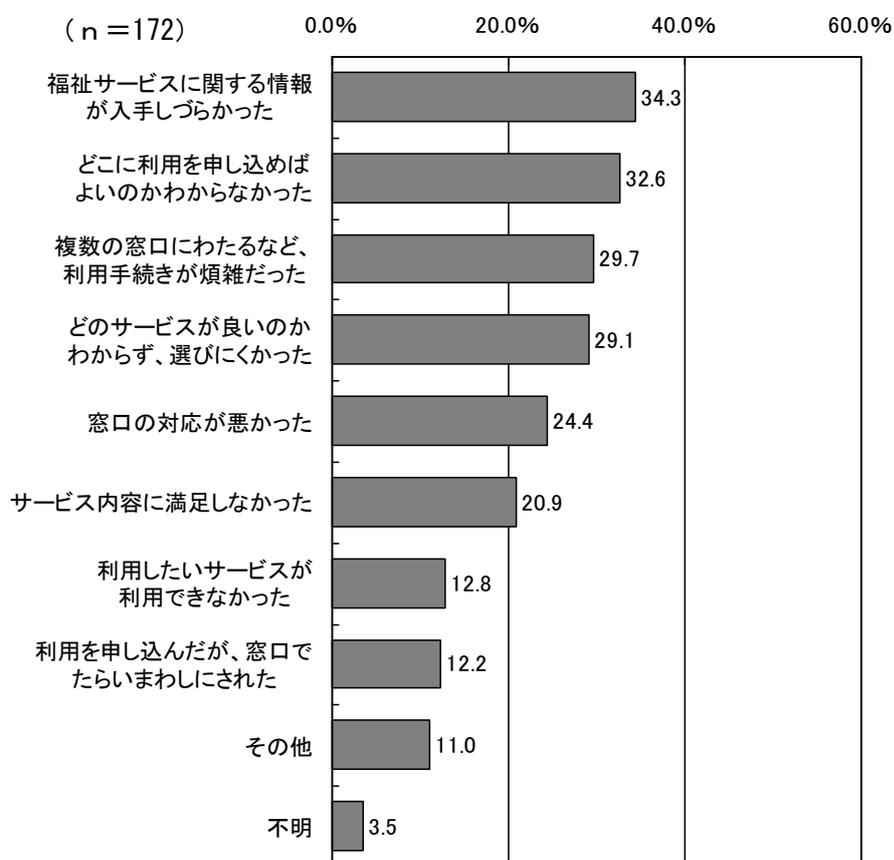
(問 22) 福祉サービスに関する不都合や不満

福祉サービスの利用に関して、不都合や不満を感じたことがあるかについては、「福祉サービスを利用したことがない」(60.0%) との回答が最も多く、「不都合も不満も感じたことはない」が 20.4%、「不都合や不満を感じたことがある」が 11.2%を占めている。



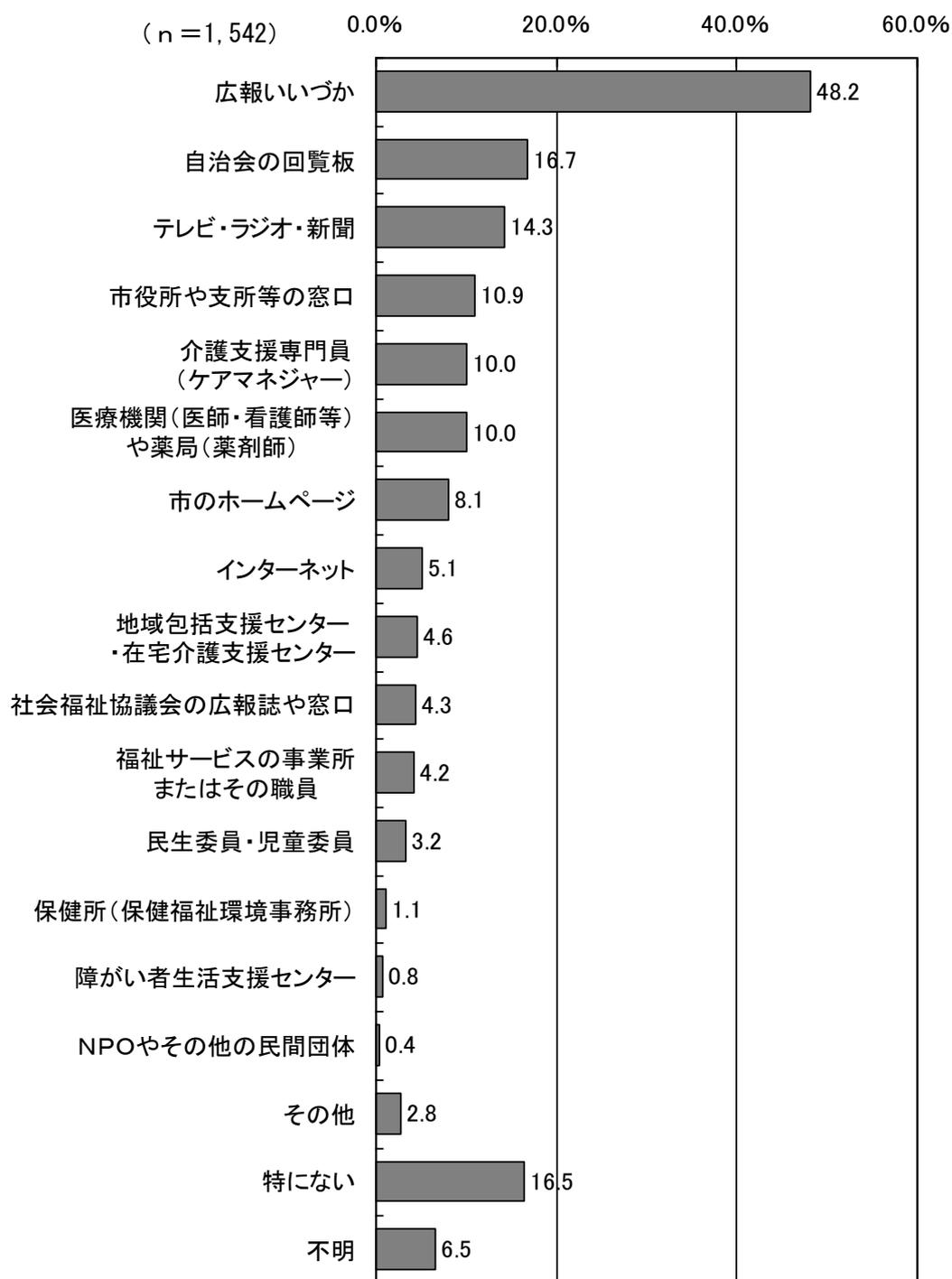
(問 22-1) 不都合や不満を感じた理由

福祉サービスの利用に関して不都合や不満を感じた理由については、「福祉サービスに関する情報が入手しづらかった」(34.3%) との回答が最も多く、次いで「どこに利用を申しこめばよいのかわからなかった」(32.6%)、「複数の窓口に渡るなど利用手続きが煩雑だった」(29.7%)、「どのサービスが良いのかわからず、選びにくかった」(29.1%) など、サービスの情報入手や手続きに関する不満が多くみられた。



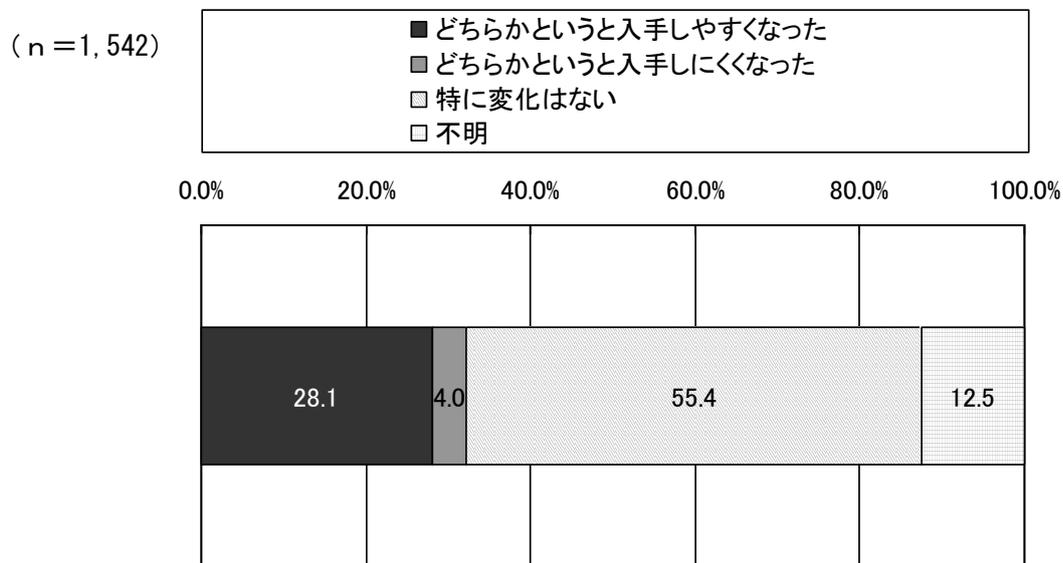
(問 23) 福祉サービスに関する情報の入手先

福祉サービスに関する情報の入手先では、「広報いづか」(48.2%)との回答が最も多く半数近くを占めている。



(問 24) 福祉サービスに関する情報の入手しやすさ

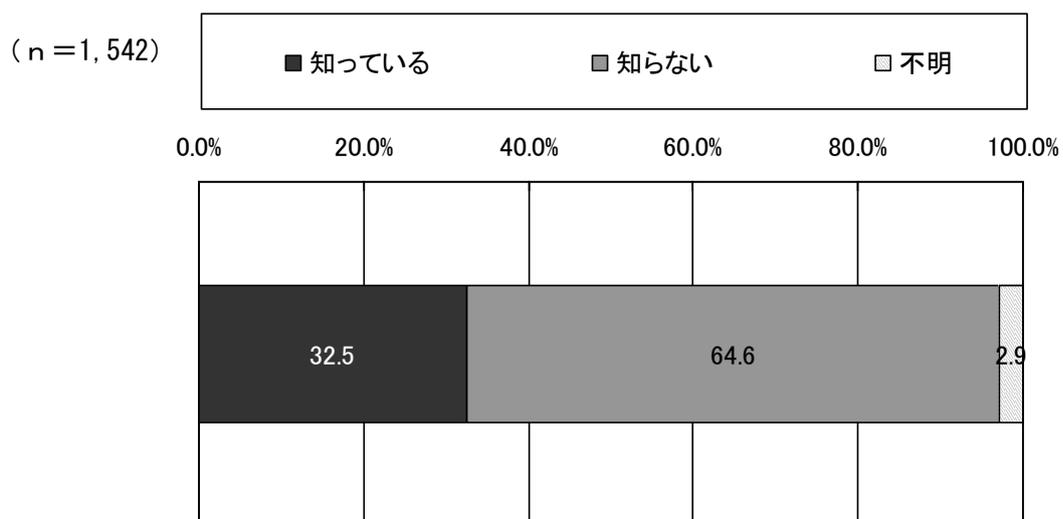
ここ5年程度の、福祉サービスに関する情報の入手しやすさの変化については、「特に変化はない」(55.4%)が過半数を占めており、「どちらかというと入手しやすくなった」が28.1%、「どちらかというと入手しにくくなった」は4.0%となっている。



5. 福祉施策全般について

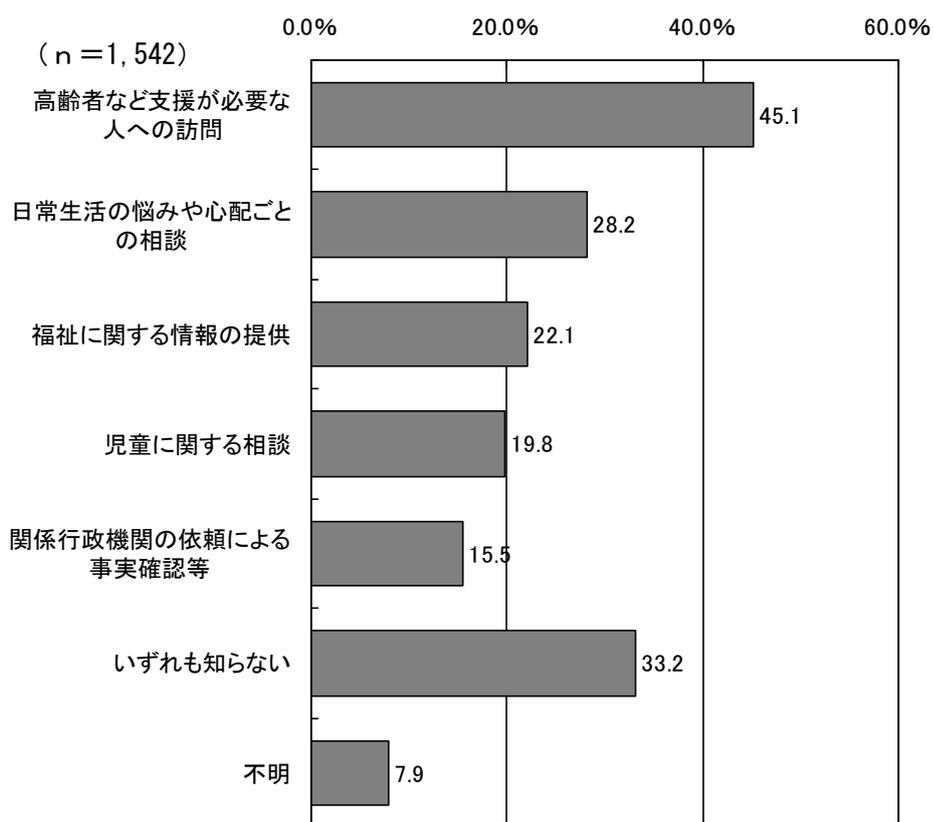
(問 25) 地区担当の民生委員・児童委員の認知度

地区担当の民生委員・児童委員を知っているか質問した結果、「知らない」が64.6%を占め、「知っている」は32.5%であった。



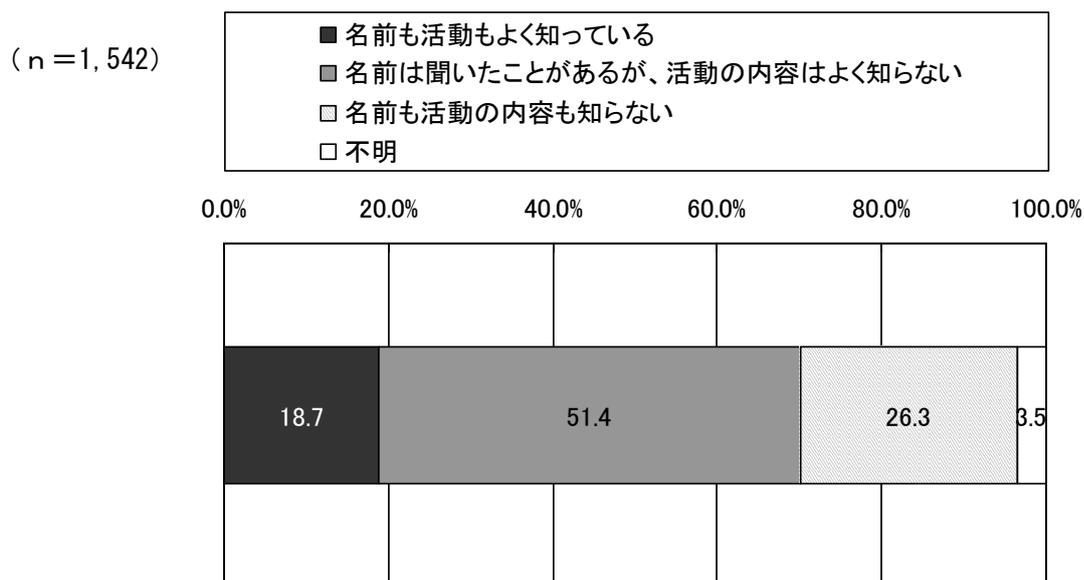
(問 26) 民生委員・児童員の活動内容について

民生委員・児童員の活動として知っているものを質問した結果、「高齢者など支援が必要な人への訪問」(45.1%)が最も多く、次いで「日常生活の悩みや心配ごとの相談」(28.2%)、「福祉に関する情報の提供」(22.1%)がこれに続いている。



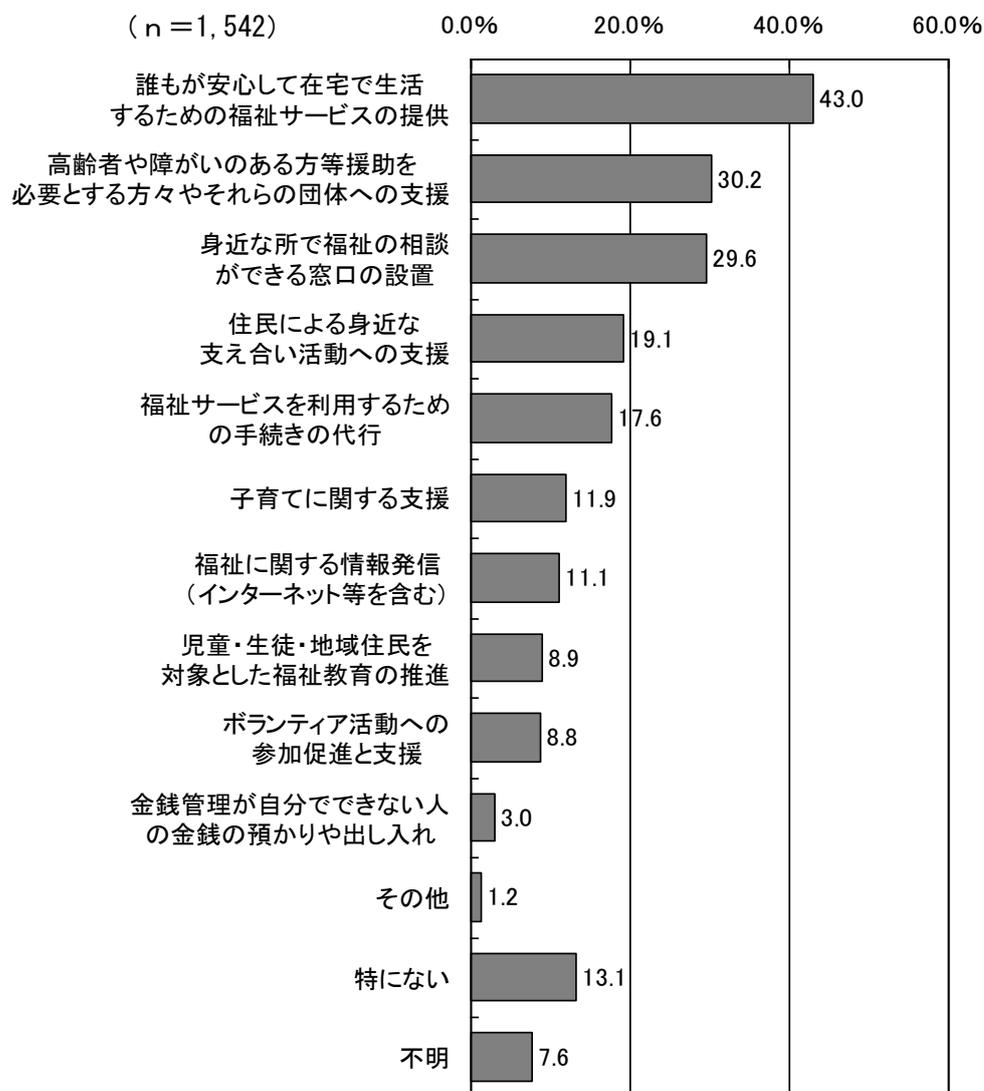
(問 27) 飯塚市社会福祉協議会の認知度

飯塚市社会福祉協議会を知っているか質問した結果、「名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」(51.4%)が過半数を占めており、「名前も活動の内容も知らない」が26.3%、「名前も活動もよく知っている」が18.7%を占めている。



(問 28) 社会福祉協議会に充実してほしい活動・支援

今後、社会福祉協議会に充実してほしい活動・支援としては、「誰もが安心して在宅で生活するための福祉サービスの提供」(43.0%)との回答が最も多く、次いで「高齢者や障がいのある方等援助を必要とする方々やそれらの団体への支援」(30.2%)、「身近なところで福祉の相談ができる窓口の設置」(29.6%)が続いている。

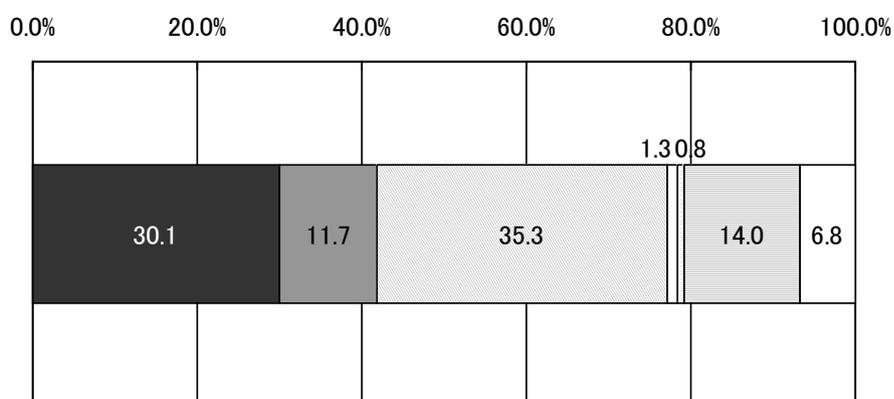


(問 29) 行政と地域住民の関係について

社会福祉サービスを充実させていくうえでの行政と地域住民の関係については、「行政も住民も協力し合い、ともに取り組む」(35.3%)との回答が最も多く、次いで「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が援助する」(30.1%)との回答が続いている。

(n=1,542)

- まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が援助する
- まず行政が実施し、できない場合に住民が協力する
- 行政も住民も協力し合い、ともに取り組む
- 住民は特に協力しなくてもよい
- その他
- わからない
- 不明



(問 30) 飯塚市が優先的に取り組むべき施策

今後、地域福祉の基盤整備のために、飯塚市が優先的に取り組むべき施策としては、「高齢者や障がいのある方が、在宅生活を続けられなくなったときに入所できる施設の整備」(40.3%)との回答が最も多く、次いで「高齢者や障がいのある方が、安心して在宅生活を続けられるサービス提供体制の整備」(29.3%)、「身近なところでの相談窓口の充実」(25.0%)が続いている。

